



青山学院初等部

Aoyama Gakuin Elementary School

青山学院初等部の教育理念

青山学院初等部は、「青山学院教育方針」にもとづいて、神から与えられた賜物を活かし、感謝の心をもって祈り、神と人に仕える人間を育てる。

5つのおやくそく

- 1 しんせつにします
- 2 しょうじきにします
- 3 れいぎただしくします
- 4 よくかながえてします
- 5 じぶんのことはじぶんでします

生活そのものを教育と捉え、一人ひとりに合わせた青山学院ならではの「手作りの教育」

ランドセルや通信簿の廃止、週5日制の導入、6年間で50日以上の宿泊行事など、日本の初等教育の中で、常に新しい試みが続けてきました。戦後間もない頃から、理科・音楽・図工・体育・英語・習字・コンピュータ・宗教といった専門性の高い科目は、専科教員が授業を受け持ち、教科の特性を最大限に生かす授業を行っています。

担任教員が担当する算数・国語・社会・生活の各教科では、児童の個性・適性に配慮し、授業内容によっては1学級32名をさらに少人数のグループに分けて教育を行っています。また、個に合わせた教育を徹底させているため、学期ごとの「通信簿」を使わず、三者（児童、保護者、教員）面談などでご家庭とのコミュニケーションを密にして、子どもたちの学習目標や成長ぶりを常に知っていただくようにしています。

3年生になると授業の中でキリスト教について学ぶ機会が設けられますが、教義を理解させることを目的とするのではなく、キリスト教精神を全身で享受してもらうためのものです。授業だけでなく毎朝の礼拝や季節ごとのキリスト教関連行事を大切にしており、母の日

の「お母さんへの感謝の集い」や、卒業生を招いて信仰にもとづく献身の話を聞く「子どもの日花の日礼拝」、イエス様のお誕生をページェントでお祝いする「クリスマス讚美礼拝」など、印象深い経験を重ね「サーバント・リーダー」へと成長していきます。

米山梅吉先生が創設した青山学院緑岡小学校に始まり、青山学院初等部は80余年の時を経て、さらに90年に向けて歩み出しています。

体験から得た感動が、子どもたちを大きく成長させる

初等部では感動や行動がともなう体験型学習が子どもたちを大きく成長させると考えており、1年生から各学年で宿泊行事を実施しています。入学して最初に行われる「なかよしキャンプ」、2年生の「農漁村の生活」、3・4年生の「山の生活」、5年生の「海の生活」、そして6年生では小さな船員として航海体験をする「洋上小学校」、3～6年生のたて割り生活「雪の学校」など、自然の中での集団生活によって思いやりと信頼の心、生きる力と行動力を養います。

体験による学習は宿泊行事だけではなくありません。各教科においても、たとえば国語では月別の「今月の詩」を暗唱したり、英語では2年生から発表を行ったり、本物の芸術を五感で味わう芸術観賞会の実施など、さまざまな体験型学習を実践しています。

日々の食事やまた生活の中の教材であると考えているため、給食には加工品を使用せず、味や栄養のバランスはもちろん、季節感や彩りを大切にしています。「日本一おいしい」と自負する初等部の給食には、子どもたちに望ましい食習慣、マナーを身につけてほしいという食育への願いが込められています。

クラブ活動

3年生以上の多くの児童がクラブ活動に参加し、活発な活動が展開されています。ラグビーやハンドベルのクラブは、小学校のクラブとして、日本でもっとも早い時期から取り組んできた伝統あるクラブです。



聖歌隊/ラグビー部/女子スポーツクラブ/美術クラブ/トランペット鼓隊/水泳クラブ/ハンドベルクワイア/アマチュア無線クラブ/探検劇場クラブ(休部)/英語クラブ/自転車クラブ/ランニングクラブ

総合活動

委員会活動から発展的に始まった「働く学習をする授業」として、初等部を支える上級生である5・6年生全員がこの活動に参加します。16のプロジェクトに分かれ、それぞれの立場で初等部を良くするために活動しています。



総合/宗教/学習センター/保健/給食/放送/環境/ホームページ作成/新聞/運動/5年プロジェクト/6年プロジェクト/販売/校庭/防災/SDGs